

高森町議会だより

PARLIAMENTARY INFORMATION

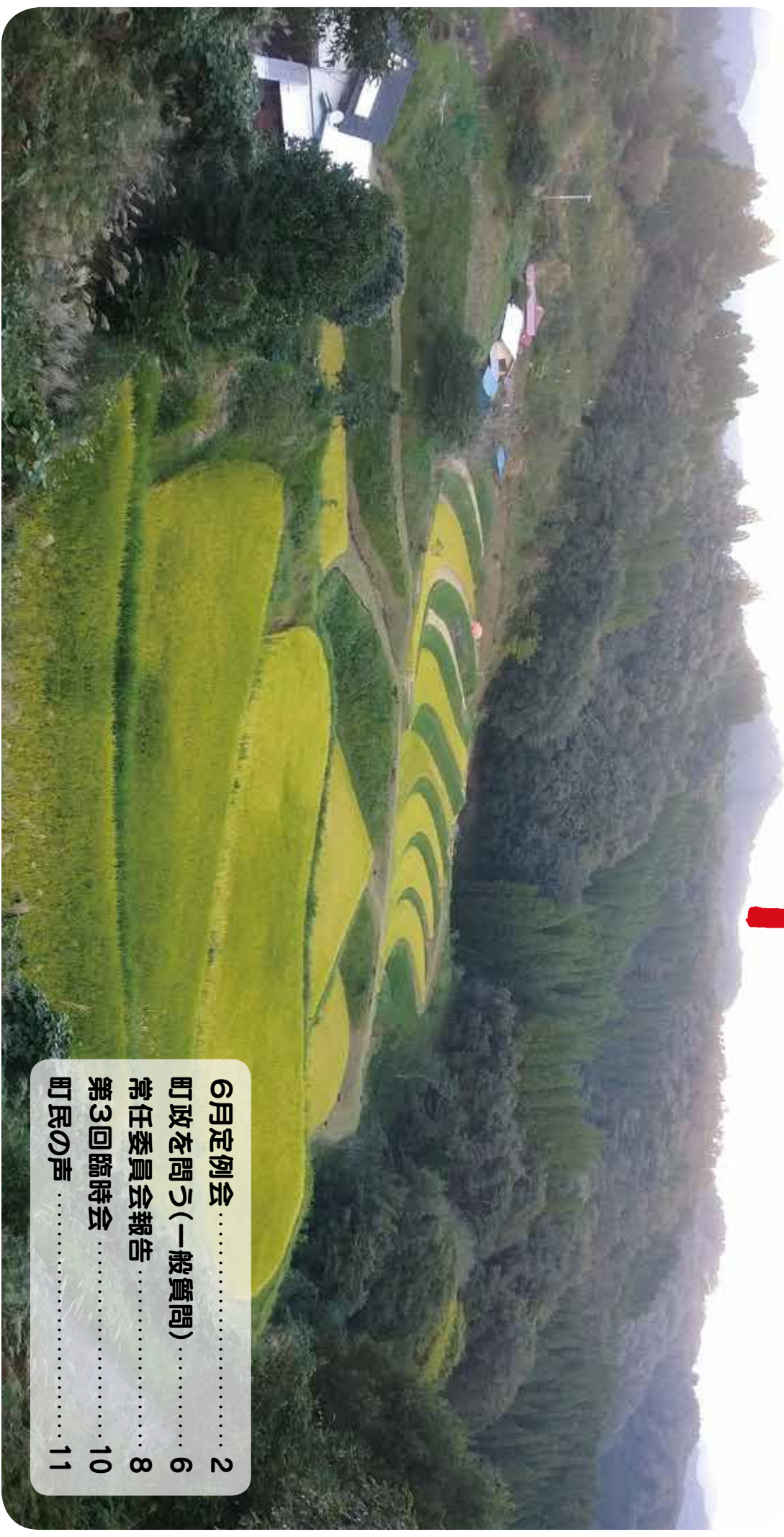
絆

令和4年8月発行
No.86
6月定例会



6月定例会	2
町政を問う(一般質問)	6
常任委員会報告	8
第3回臨時会	10
町民の声	11

水迫の棚田 (草部南部)



令和4年 第2回6月定例会

人事案件

高森町職員懲戒審査委員会委員3名が選任されました。

同意 第4号



渡邊 博実氏
(高森 上在)

同意 第5号



吉良 充展氏
(高森 横町)

同意 第6号



後藤 一寛氏
(上色見 前原)

(任期：令和4年7月1日～令和8年6月30日)

令和4年度 一般会計補正予算(第2号)

2億7,602万8千円を追加

予算総額 73億8,084万3千円

国・県補助活用事業

たかもりマンガ魅力発信応援事業

【主な事業】

- ①マンガ関連講座の実施(有名漫画家や編集者によるマンガ関連教室開催)
- ②アーティストビレッジ阿蘇096区見学(プロの漫画家及び編集の現場や漫画制作機材に触れる機会の創出)
- ③町内観光資源体験
- ④高森滞在費支援(県内外からより多く呼び込む為、交通費(バス送迎)や宿泊費等支援)



【財源】

熊本県の「地域づくり夢チャレンジ推進補助金」を活用予定(補助率：3/4)

事業費	県補助額	ふるさと応援寄附金	一般財源
737万円	552万円	185万円	0円

給水車購入事業

地方創生臨時交付金 活用予定

【事業内容】

ステンレスタンク給水車を1台追加購入

⇒新型コロナ時代における濁水等の不測の事態に、安心安全な飲料水を迅速に配水できるよう備えるとともに給水が必要な事業等に対し、幅広い活用の展開を図る。



事業費	国庫補助額	一般財源
2,340万円	2,340万円	0円

外出応援 臨時敬老祝い金事業

地方創生臨時交付金 活用予定

【支給額】

70歳以上 2,000円⇒10,000円、88歳 10,000円⇒18,000円、100歳 50,000円⇒58,000円

【支給方法】

各地区の敬老会開催時（9月）に現金給付。

⇒**令和4年度限り**とし、**新型コロナウイルス感染症等の影響により敬老会が開催されない場合は口座振込み。**



事業費	国庫補助額	一般財源
1,679万円	1,679万円	0円

低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金事業

【支給対象者】

- ①令和4年4月分の児童手当又は特別児童扶養手当の受給者で令和4年度分の住民税均等割が非課税である方
- ②①のほか、対象児童の養育者であって以下のいずれかに該当する方
 - ・令和4年度分の住民税均等割が非課税である方
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて家計が急変し、令和4年度の住民税均等割が非課税である方と同様の事情であると認められる方



【対象児童及び給付額】

令和4年3月31日時点で18歳未満の子（障害児については20歳未満）

対象児童1人あたり一律5万円

【給付方法】

- ①市町村から支給対象者へ給付金の案内チラシ及び希望しない場合等の申出書を送付
- ②児童手当登録銀行口座等への振込

※高校生のみ養育者及び家計急変者は支給対象者の居住市町村に申請が必要。

【給付開始日】

市町村において決定

事業費	国庫補助額	一般財源
626万円	626万円	0円

町立学校給食費助成事業(物価高騰分)

地方創生臨時交付金 活用予定

【事業の目的】

長期化する新型コロナウイルス感染症の影響を受けて物価高騰が続いている中、今後も見通しが不透明なウクライナ情勢により原油価格や円安も重なっている現状を踏まえ、緊急的な臨時政策として保護者の負担を軽減するため町内全小、中、義務教育学校の児童・生徒の給食費を令和4年度に限り7月分から3月分までを無償化する。

(教師等学校関係者を除く)

【財源】

国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」のうち原油価格・物価高騰対策分を活用予定。

事業費	国庫補助額	一般財源
1,900万円	1,900万円	0円



ふるさと納税活用事業

事業名	事業費	ふるさと応援寄附金	一般財源
ふるさと応援多目的車両購入事業	560万円	560万円	0円
ふるさと応援イベント等フリースペース整備事業(空き地活用事業)	129万円	129万円	0円
ふるさと応援グリーンツーリズム観光資源創出事業(公園・街路等への植樹事業)	1,000万円	1,000万円	0円
ふるさと応援高齢者活動支援事業(公民館等への座卓テーブル設置事業)	969万円	969万円	0円
ふるさと応援福祉事業(役場・総合センター・湧水トンネルに軽量車いす設置)	30万円	30万円	0円
ふるさと応援通いの場活性化事業(通いの場にリモート会議用TV・椅子・テーブル設置)	150万円	150万円	0円
ふるさと応援新規就農者受入体制強化事業補助金(農業師匠の下での短期研修補助)	20万円	10万円	10万円(利用者負担)
ふるさと応援観光客等安全対策臨時補助事業	1,500万円	1,500万円	0円
ふるさと応援ジュニア防災検定補助(小・中学生)	39万円	39万円	0円
ふるさと応援学生寮(男子・女子)備品等整備事業	4,173万円	4,173万円	0円

令和4年6月定例会 主な質疑応答

報告第1号

繰越明許費に係る繰越 計算書の報告について

質

〔後藤蔵議員〕

建設課土木事業の河川しゅんせつ工事選定は、どのような基準で決められたか。

答

〔建設課長〕

河川のしゅんせつ工事について選定基準はない。必要な個所と判断した所は全てやるようにしている。

議案第45号

令和4年度高森町一般 会計補正予算について

質

〔後藤三治議員〕

社会資本整備総合交付金の防災・安全交付金は3月歳入予算で計上していたが、今回8,453

万8,000円の減額は どうしてか。

答

〔建設課長〕

防災・安全交付金について県内全市町村で道路整備に関する補助が大幅に減額され、要望額の3割程度の内定となった。

答

〔町長〕

防災・安全交付金等が草村町政12年間で、減額された事はほばない。

以前はほとんど起債と一般財源でまかっていたので起債（借金）の額が増えていたのではないか。草村町政になって12年間、国・県の補助金を最大限活用し残りの分を起債でまかっているため、町の負担を抑える事ができている。議員の皆さんもそのところはしっかり認識を持っていただきたい。

質

〔後藤三治議員〕

高森ポイントチャンネルのアンケート調査の結果は。

答

〔TPC事務局長〕

3月に実施した調査は集計まで終えている。詳しい内容を各課で分析をして、TPCで放送したいと思っている。

質

〔牛嶋津世志議員〕

給水車購入事業について、給水車の活用状況は。今回1台購入する理由は。

答

〔建設課長〕

渇水地区（3カ所）への給水作業等に活用した。以前はポリタンクによるピストン配送の対応だったが、安全性・時間・労力すべての面で効率が悪くなった。他に野焼きなど防火水配送、他の町村への貸し出しなど幅広く活用している。

答

〔町長〕

給水車は新型コロナウイルス感染症対策ため導入。防災防火活動などに対応する。地方創生臨時交付金を活用。

質

〔牛嶋津世志議員〕

ふるさと応援観光客等安全

対策臨時補助金事業。安全対策整備とはどのような内容か分かりやすく説明を。

答

〔政策推進課長〕

具体例として観光客等が訪れる場所の駐車場整備、周辺の安全柵などの整備を予定。

答

〔町長〕

地域の方が自主的に安全対策をされ、観光車両や歩行者に対する対策、他の危険予防に繋がるための整備。

質

〔牛嶋津世志議員〕

ふるさと応援学生寮備品等整備事業の予算であるが、既設の建物など手つかずである。工事の進捗状況を説明願う。

答

〔教育委員会事務局審議員〕

町営学生寮（男子寮）の工事入札を6月7日開催。現在の社会的状況から不調に終わる。備品も早い段階から確保の必要があり予算立て。女子寮予定地は10月までに県工事で解体予定と聞いている。

一般質問

大分県竹田市との包括連携協定

想定される災害に備えた取り組みで評価するが、宮崎県高千穂町との連携も必要では



後藤 三治 議員

町長 大変未来思考型の前向きなご提案で、気持ちは一緒

質問 熊日新聞に、「大規模災害備え」の見出しで、「高森町と竹田市は3月28日、南海トラフ地震に備えた防災体制の強化や、新型コロナウイルス収束を見据えた観光振興に向けて包括連携協定を結んだ。」との報道は、これまで幾多の災害に見舞われた町として、又、今後想定される災害に備えた取り組みで、町民の皆様も評価していると思う。

本町は熊本県の最東端に位置し、野尻地区は大分県竹田市。草部地区は宮崎県高千穂町に接し、日頃からの行き来に加え、先の熊本地震では、生活物資等の買い出しにいかれた方も沢山いると思う。折角の機会なので、宮崎県高千穂町との連携も必要では。

町長 大変未来思考型の前向きなご提案で、

ありがたいなと思っております。気持ちは一緒である。今回の包括連携協定は大分県竹田市と、南海トラフ地震に備えた防災体制の強化や、新型コロナウイルス収束を見据えた観光振興に向けて包括連携協定を結ぶものであります。宮崎県高千穂町とも、今後より深みのあるような協定の方性を考えていくべきではないかというふうに思っている。

3人の熱弁

町道 西原・日ノ尾峠線(防災道路)の利活用

防災面と観光面、地域の活性化に繋げていく



後藤 巖 議員

政策推進課長 補助整備事業を2案準備して対応する

質問 地域の方がボランティアで植えた桜がサクラミチとして認知されてきた防災道路を新たに地域支援・観光施策として支援は考えているか。

政策推進課長 地域住民の皆さまが地域を盛り上げる、その様な思いを形にするための新たな取り組みの補助として、高森町グリーンツーリズム観光資源創出事業補助金制度を創設、急激な観光入込客数に対する安全確保として、高森町観光客等安全対策整備事業を予算計上している。いずれも財源としてはふるさと納税応援寄付金を充てる。

質問 この道路が観光に寄与し、住民の命を守るという様々な意味合いを持つ道路として、行政は伝えていく必要が

あると思うがどの様に進めていくのか。

町長 この道路は平成24年九州北部豪雨災害の防災道路として議会に諮り完成をした。計画時に将来は観光的な道路となる予測も立てていた。そんな中で地域の方が率先して植えた桜が5,000人も人が訪れる観光スポットとなった。そこで行政としては地域の整備と安全の確保に対し補助事業を提案している。有効に活用して頂きたい。但し、行政がやるのではなく、地域の皆さまが結束し、整備や安全対策を一緒にやっていく思いが大事だと思う。そしてこの種の事業は町民の税金ではなく、ふるさと納税を活用すべきと考えます。

町政を問う

熊本県立高森高校マンガ学科開講に向けた高森町としての高校魅力化の取組と地域活性化

マンガ学科と連携したまちづくりのビジョンは

町長 ソフトパワーによる高森町型の地方創生のモデルケースを示していきたい



立山広滋議員

3人の熱弁

質問 「高森高校マンガ学科推進室」新設の目的は。

教育長 関係機関の役割を機能させる中核となる体制を整備した。県

教委からも、マンガ学科開講の準備を担当する指導主事1名の人事配置を受けている。

質問 高森高校マンガ学科関連の主たる事業の進捗状況は。

教育委員会事務局審議員 諸物資の供給不足が続いているため、全事業実施計画をすべて前倒して事業着手している。

質問 県教委、コアミックス、高森高校との連携状況は。

教育委員会事務局審議員 教育カリキュラム編成、部活動「マンガ部」の設置、

オープンスクールの開催、プロモーションビデオの作成を共同で進めている。今後は、卒業後の進路対策についても検討する。

質問 町長のマンガ学科と連携したまちづくりのビジョンは。

町長 エンタメ業界と連携した高森高校の人材育成が、「第2の故郷高森町」の愛着心を育み、プロデビューした卒業生や、

エンタメ業界で活躍する卒業生が、日本国内や海外で高森町をPRする等何らかの形で貢献をいただけるのではないかと。今後更に厳しくなる人口減少社会においても、しっかりと持続的に発展できる、ソフトパワーによる熊本県高森町型の地方創生のモデルケースを示していきたい。



高森高校マンガ学科プロモーション映像用QRコード

スマートフォンやタブレットのQRコードリーダーで読み取ると、YouTubeで視聴可能です！

総務文教常任委員会報告

☆会期中の委員会審議

委員会に付託された議案「津留辺地に係る公共的施設の整備計画の策定について」「野尻辺地に係る公共施設の整備計画の策定について」「熊本県高森高等学校魅力化推進基金設置条例の制定について」「令和4年度高森町一般会計補正予算について」担当者から詳細に説明を受け審議した結果、すべての議案を可とした。

◎熊本県立高森高等学校魅力化推進基金設置条例の制定について

【条例の対象事業】

①高森高校マンガ学科講師と連携した地域活性化及び地方創生事業（プロの漫画家を部活動に派遣）

②教育環境の整備に関する事業。

③南阿蘇鉄道を経由しマンガ学科へ通う生徒の通学支援事業。（熊本駅～高森駅が月額約1万5千円で通学可）

【主な質疑事項】

質 生徒募集の具体的な周知方法は。

答 プロモーションビデオを作成し、熊本県教育委員会と連携しながら全国の中学生・保護者等にPRする。YouTube公式チャンネルも活用する。



県立高森高等学校

◎令和4年度高森町一般会計補正予算について

【主な質疑事項】

質 サイクルツーリズムの利用状況とガレージの設置場所は。

答 月平均10件程度の利用である。ガレージは駅前の高森観光推進機構とあと1カ所は公募して設置する。



高森観光推進機構

質 観光客の安全対策について予算上限額を超えた場合の対応は。

答 予算を上回る申し込みがあった場合、のちの補正予算で対応する。

質 高森高校オープンスクールの補助対象者は。

答 バスの交通費・町内での宿泊費は1名の生徒に対し1名の保護者まで対象とする。

質 ジュニア防災検定について継続性は。

答 『高森ふるさと学』の流れの中に位置づけ、継続的に行う。

質 地域おこし協力隊が活用しているリース車両は何台あるか。

答 福祉・政策・教育・農政など7台を活用している。

質 横町の町有地の場所と整備内容は。

答 豊前屋本店の向かい側で、鉄鋼スラグ等を用いて整備する。



横町の町有地

産業厚生常任委員会報告

☆会期中の委員会審議

委員会に付託された「令和

4年度高森町一般会計補正予算について」「令和4年度各特別会計補正予算（3件）」について各担当者より詳細に説明を受け審議した結果、付託されたすべての議案を可とした。

◎令和4年度高森町一般会計

補正予算について

【主な質疑内容】

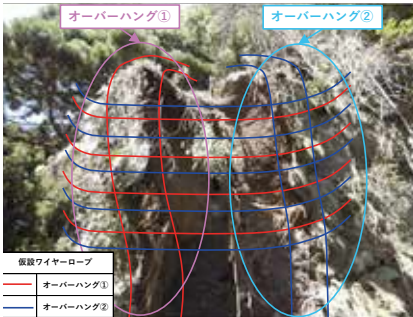
質 防災・安全交付金（道路新設改良費）の減額予算を伺う。

答 3月議会にて国に対し約1億1千万の交付金要望を行っていたが、要望の約3割程度の内定となった。本年度要望している路線はいずれも早急な整備が必要となる事から、減額分の財源は過疎債や辺地債を使い、有利な起債にて対応し財源組替をした。

これまでは要望がほぼ認められてきたが、これからは当初に要望した交付金を通らない事も考えた事業計画を立てる必要がある。

質 町道社倉・水迫線落石崩壊対策事業を伺う。

答 張り出している岩石破砕手法として破砕剤を注入し亀裂を発生させて岩石を落下させる。その場合、作業員が共に落下する恐れがあるためワイヤーロープを張り安全性の確保をするための補正予算計上である。



工法予定



岩石崩落現場

質 ふるさと応援通いの場活性化事業とは。

答 コロナ禍の影響もあり集落支援員はリモートにて会議を行ってきた。これからの会議のスタイルとしてリモートと共に集合する場を設置し、いままでするで行っていた会議を昭和公民館で行う。その為にモニターや椅子・机等を整備する拠点整備事業である。リモートだけでは解決できない会議を専用の場所で行うことでより一層の活動強化が図られる。



昭和公民館

質 非接触型草原維持事業を伺う。

答 野焼きから延焼により山林火災が発生している。これは牧野組合員の減少や高齢化により防火常作成などの延焼対策が難しくなっていたり、新型コロナウイルスの影響で人が集まらないなどの理由がある。キャタピラ式リモコン付きハンマーナイフモア（遠隔操作草刈り機）を導入し各牧野組合に貸し出し、可能な限り草丈を短くすることで、野焼き実施時の火柱抑制を図り、安全かつ円滑な支援が可能となる。



リモコン付きハンマーナイフモア

令和4年 第3回臨時会

令和3年度 一般会計補正予算(第16号)を専決
3億8,319万円を追加
 予算総額 93億8,480万8千円

補正理由：主に地方交付税等が確定し、補正する必要が生じたため

専決とは：議会を開催する時間的余裕がない等の理由により議決より先に町長が予算等を決定すること。

令和4年度 一般会計補正予算(第1号)
2,181万5千円を追加
 予算総額 71億481万5千円

国・県補助活用事業

ウィズコロナ下での「通いの場」介護予防イベント

新型コロナウイルスの感染防止対策を確保した上で、介護予防推進のためのイベントを実施します。

【事業内容】

- 県の「介護予防拠点整備事業(100%補助)」を活用して整備してきた各地区公民館等の「通いの場」をより有効に活用していくために「ボッチャ」や「eスポーツ大会」の開催により、通いの場への参加者増加だけでなく、様々な世代の交流に繋げる。
- 「避難フェス」を開催し、避難行動要支援者への支援方法を確認する。

【事業財源】

国の「介護保険事業費補助金」を活用(補助率:2/3)

⇒町負担分(1/3)の80%は「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用。

【町の実質負担:1/15】

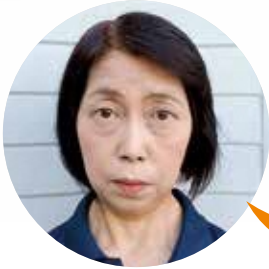
事業費	補助額	ふるさと応援基金	※町負担
1,178万円	752万円	50万円	376万円

※補助対象外経費にはふるさと納税を活用予定



ボッチャをしている様子

町民の声



米田 知子さん
(高森・冬野)

私は、今から約12年前、高齢の母のいる実家に家族で帰郷しました。現在は、仕事の都合で単身赴任中である主人の協力の下、高齢の母と次男（社会人）と3人で生活しております。

帰郷したとき、長男は中学生、次男は小学生でした。子どもの成長とともに感じたことは、自然豊かな高森でありますので、家の外で遊んで当たり前ではありますが、ゲーム機の普及により、高森の実家に帰ってまで家の中で休日ゲームをして遊ぶことでした。

帰郷する以前は、ゲームをしてもその後は、外でサッカーや野球をしたり、また、友だちと外出することもあったのに、何故だろう？と思い、子どもに尋ねると遊ぶ場所が学校やグラウンド以外ない！との答えでありました。

高森町には、子どもたちが外で遊ぶ広場や公園、大人が散歩できる安全な歩道。そして来訪客や町民が安心して買い物が出来る道の駅、物産館等があれば町は更に活性化するのではと感じます。

私の住んでいる近くに、高森湧水トンネル公園があり、今年度公園内の整備を計画されているとのことですので、先に述べた広場や公園、道の駅や物産館等の設置も考えていただきますようお願いいたします。



住吉 美智子さん
(高森・下町)

私は高森で育ち、また子育てを終え今は仕事に専念しています。

美しい阿蘇の山々に向かって車を走らせ通勤する朝はとても幸せを感じる時です。多くの方々に支えられ家族に恵まれ、楽しく子育てが出来た高森町は大切な場所です。

今、また新たな教育環境になり子どもたちの楽しく生き生きとした姿を映像で見ることができて嬉しく思います。

町議会議員の方の町民の皆さんに向けられた細かな心配りのある議会の様子も毎回楽しみにしています。役場職員の方もより迅速丁寧に対応していただけていると思っています。

現在、私は微力ながら町の女性消防団に所属しています。消防団員の方たちの活動には感謝、時には感動さえ覚えます。

毎年の防火パレード時など沿道で頭を下げられて感謝の意を示されているご婦人の姿を見た事、子どもたちの元気な声で防火の呼びかけなど、小さなことをコツコツ続けていく事の大切さを学ばせていただいています。

今後も色々な課題があり、農業、商業、観光など時には天災や疫病など思いがけない事が起こる世の中ですが、人と人の繋がりを大切にしてお互いを思いやる心を持っていれば、前に進んでいけるのではないかと思います。

高森町が好きな方たちと繋がって生きていきたいです。

議会広報特別委員会

誘致企業視察報告



7月14日に議会広報委員4名にて高森町に進出したサンユー工業（株）高森事業所を視察した。マネージャー以下4名より進出した理由、製造する部品や今後の展望を伺った。近年における半導体の不足により、部品増産の為に工場設置が必要になった。製造しているのはパソコンやスマートフォンに使われている半導体を検査する装置に使用される電子部品（リードリレー）であるとの説明を受けた。

その後、生産ラインの見学をした。工程は精密部品の組み立てで、本社より社員が派遣されており指導を受けながら製作されていた。今後の増産体制の構築の為に人員の確保が必要であるが、予定の従業員数に達しておらず今後も面接を通じ増員を行いたい、その際は高森高校からの採用も期待しているとのこと。

議会としても最大限支援をしたいと考えている。

（文責 広報委員 後藤 巖）



サンユー工業とは

昭和47年創業。本社は東京。令和4年7月に高森事業所（新工場）を建設。

編集後記

半世紀ほど前の夏休み。都会に住む従姉妹たちは、『林間学校』と称して毎年のように我が家に泊まりに来ていました。ラジオ体操・昆虫採集・川遊び・隣村への冒険など『スタンドバイミー』さながらに。

『山引き』が終わるころ彼女たちは都会へ帰り、一人取り残された私は、宿題の山に追われる日々。仏壇に供えてあったパッサパサの饅頭を片手に縁側に座れば、「カナ・カナ・カナ!」とヒグラシの寂しい声。過ぎ行く晩夏に日焼けした少年の浮かぬ顔が…。

忙しい現代、子どもたちの夏の思い出は如何に？

広報委員 津留 智幸

議会広報特別委員会

議長 佐伯 金也（発行責任者）

委員長 牛嶋津世志 委員 津留 智幸

副委員長 後藤 清治 委員 後藤 巖

